

**Sun Blade X3-2B (旧 Sun Blade X6270 M3)
Oracle® VM サーバーインストールガイド**



Part No: E36238-01
2012 年 7 月

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT END USERS:

Oracle programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, delivered to U.S. Government end users are “commercial computer software” pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, shall be subject to license terms and license restrictions applicable to the programs. No other rights are granted to the U.S. Government.

このソフトウェアもしくはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアもしくはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション（人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む）への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性（redundancy）、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したこと起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

OracleおよびJavaはOracle Corporationおよびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

Intel、Intel Xeonは、Intel Corporationの商標または登録商標です。すべてのSPARCの商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc.の商標または登録商標です。AMD、Opteron、AMDロゴ、AMD Opteronロゴは、Advanced Micro Devices, Inc.の商標または登録商標です。UNIXは、The Open Groupの登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

目次

このドキュメントの使用方法	5
Sun Blade X3-2B モデル名の変更	5
最新のファームウェアおよびソフトウェアの取得	5
ドキュメントとフィードバック	6
このドキュメントについて	6
サポートおよびトレーニング	6
寄稿者	7
変更履歴	7
Sun Blade X3-2B Oracle VM インストールガイドについて	9
Oracle VM ソフトウェアのインストールについて	11
Oracle VM インストールタスク表	11
Oracle VM の概要	12
Oracle VM のインストールオプション	13
Oracle System Assistant	14
Oracle VM Server インストールの準備	17
インストール環境の準備	17
仮想ディスクの作成およびブートディスクの設定	19
BIOS モードの設定	19
Oracle VM Server のインストール	21
Oracle VM Server をインストールする (Oracle System Assistant)	21
Oracle VM Server のインストール (手動)	25
Oracle VM インストールの完了	31
サーバーシステムツールにアクセスする	31
すべての Oracle VM ドライバをインストールする	32
個々の Oracle VM ドライバをインストールする	33
Oracle VM リソースの作成と管理	34
サーバーファームウェアとソフトウェアの入手	35
ファームウェアとソフトウェアのアップデート	35

ファームウェアおよびソフトウェア入手のオプション	36
入手可能なソフトウェアリリースパッケージ	36
ファームウェアとソフトウェアの入手	38
アップデートのインストール	42
 索引	 45

このドキュメントの使用方法

このセクションでは、システムの最新のファームウェアとソフトウェア、ドキュメントとフィードバック、およびドキュメント変更履歴の入手方法を説明します。

- 5 ページの「Sun Blade X3-2B モデル名の変更」
- 5 ページの「最新のファームウェアおよびソフトウェアの取得」
- 6 ページの「ドキュメントとフィードバック」
- 6 ページの「このドキュメントについて」
- 6 ページの「サポートおよびトレーニング」
- 7 ページの「寄稿者」
- 7 ページの「変更履歴」

Sun Blade X3-2B モデル名の変更

Sun Blade X3-2B の旧称は Sun Blade X3-2B です。この名前がまだソフトウェアに表示されている場合があります。名前の変更は、システム機能の変更を示すものではありません。

新名称の意味は次のとおりです:

- X は、x86 製品であることを意味します。
- 最初の数字 3 は、サーバーの世代を意味します。
- 2 番目の数字 2 は、プロセッサの数を意味します。
- アルファベット B は、ブレードサーバー製品であることを意味します。

最新のファームウェアおよびソフトウェアの取得

Oracle x86 サーバー、サーバーモジュール (ブレード)、およびブレードシャーシのファームウェア、ドライバ、およびその他のハードウェア関連ソフトウェアは、定期的に更新されています。

最新バージョンは次の 3 つのうちいずれかの方法で入手できます:

- Oracle System Assistant - これは、Sun Oracle x86 サーバー用の、出荷時にインストール済みの新しいオプションです。OSA は必要なすべてのツールとドライバを備えており、ほとんどのサーバーに取り付けられている USB ドライブに格納されています。

- My Oracle Support – <http://support.oracle.com>
- 物理メディアのリクエスト

詳細については、[35 ページ](#)の「サーバーファームウェアとソフトウェアの入手」を参照してください。

ドキュメントとフィードバック

ドキュメント	リンク
すべての Oracle 製品	http://www.oracle.com/documentation
Sun Blade X3-2B	http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=SunBladeX3-2B
Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.1	http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ilom31
Oracle Hardware Management Pack	http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ohmp

このドキュメントについてのフィードバックは次からお寄せください:<http://www.oracle.com/goto/docfeedback>。

このドキュメントについて

このドキュメントセットは、PDF および HTML の両形式で入手できます。情報はトピックに基づく形式 (オンラインヘルプと同様) で表示されるため、章、付録、およびセクション番号は含まれません。

特定のトピック (ハードウェア設置やプロダクトノートなど) に関するすべての情報が含まれる PDF を生成するには、HTML ページの左上にある PDF ボタンをクリックします。

サポートおよびトレーニング

次の Web サイトに追加のリソースがあります:

- サポート:<http://support.oracle.com>
- トレーニング:<http://education.oracle.com>

寄稿者

主著者: Lisa Kuder、Ray Angelo、Mark McGothigan、Cynthia Chin-Lee。

寄稿者: Yi Cai、Kenny Tung、Salomon Chavez Velazquez、Daniel Silverman、Johnny Hui、Angela Vlahos、Anand Srinivasan、Darren Tran、Mark Stanton、Denise Silverman、Ralph Woodley、Mick Tabor

変更履歴

次の一覧はこのドキュメントセットのリリース履歴です:

- 2012 年 4 月。初版。
- 2012 年 5 月。SW 1.0.1 に合わせて更新。改訂版ドキュメントライブラリを再リリース。
- 2012 年 6 月。SW 1.1 に合わせて更新。プロダクトノートとサービスマニュアルを改訂。
- 2012 年 7 月。サーバーモデル名の変更。全ドキュメントを改訂。

Sun Blade X3-2B Oracle VM インストールガイドについて

注 - 重要: Sun Blade X3-2B は以前は Sun Blade X6270 M3 サーバーモジュールという名前でした。この名前がまだソフトウェアに表示されている場合があります。名前の変更は、システム機能の変更を示すものではありません。

このドキュメントでは、Oracle VM Server をインストールする方法について説明します。次のセクションがあります:

説明	リンク
Oracle VM サーバーと使用可能なインストール方法について説明します。	11 ページの「Oracle VM ソフトウェアのインストールについて」
インストール要件を確認し、Oracle VM ソフトウェアを取得します。	21 ページの「Oracle VM Server のインストール」
Oracle VM ソフトウェアのインストールを完了させます。	31 ページの「Oracle VM インストールの完了」
サーバーモジュールファームウェアおよびソフトウェアへアクセスする方法を学習します。	35 ページの「サーバーファームウェアとソフトウェアの入手」

Oracle VM ソフトウェアのインストールについて

このセクションでは、Oracle VM ソフトウェアとインストールオプションについて説明します。

説明	リンク
Oracle VM インストールタスクの概要を把握します。	11 ページの「Oracle VM インストールタスク表」
Oracle VM ソフトウェアについて説明します。	12 ページの「Oracle VM の概要」
使用するインストール方法を決定します。	13 ページの「Oracle VM のインストールオプション」
Oracle System Assistant について説明します。	14 ページの「Oracle System Assistant」

Oracle VM インストールタスク表

次の表に、Oracle VM ソフトウェアをインストールするための大まかな手順を示します。

手順	説明	リンク
1	Oracle VM サーバーとインストールオプションについて説明します。	12 ページの「Oracle VM の概要」 13 ページの「Oracle VM のインストールオプション」
2	Oracle VM サーバーをインストールするためにサーバーモジュールを準備します。	17 ページの「Oracle VM Server インストールの準備」
3	使用可能ないずれかのオプションを用いて Oracle VM ソフトウェアをインストールします。	21 ページの「Oracle VM Server のインストール」
4	Oracle VM ソフトウェアの更新と Oracle VM サービスの管理を行います。	31 ページの「Oracle VM インストールの完了」

Oracle VM の概要

Oracle VM は、ユーザーが仮想マシン (VM) を作成して管理できる仮想化環境プラットフォームです。これらの仮想マシンは同じ物理サーバーに存在しますが、独立した物理サーバーのように動作します。Oracle VM で作成された各仮想マシンは、それぞれ自分自身の仮想 CPU、オペレーティングシステム、ネットワークインタフェース、およびストレージを備えています。

ご購入のサーバーは、Oracle VM バージョン 3.0 以上で使用できます。サポートされているオペレーティングシステムの最新のリストについては、サーバーの『[Sun Blade X3-2B \(旧 Sun Blade X6270 M3\) プロダクトノート](#)』を参照してください。

注 - Oracle VM のインストール済みバージョンを購入した場合は、サーバーのインストールガイドに示された手順に従ってインストール済みソフトウェアを構成してください。

Oracle VM には次のコンポーネントが含まれています:

- **Oracle VM Server:** 仮想マシンと Oracle VM エージェントの実行に使用する Xen ハイパーバイザをベースとした、軽量のセキュアな仮想化環境。
- **Oracle VM Agent:** Oracle VM Server 上にインストールされ、Oracle VM Manager と通信し、Oracle VM Server、サーバープール、およびリソースを管理するための Web サービス API が含まれています。
- **Oracle VM Manager:** 仮想マシンを作成して管理するためのユーザーインタフェースの役割を果たす Web アプリケーション。これには、仮想マシンの作成 (テンプレートを含む)、ライフサイクル管理 (配備、移行、および削除)、およびリソース管理 (.iso ファイル、テンプレート、および共有ストレージリソース) が含まれます。

このドキュメントには、Oracle VM Manager をインストールする手順は含まれていません。Oracle VM Manager に関する詳細は、次を参照してください:

http://download.oracle.com/docs/cd/E20065_01/index.htm

サポートされているソフトウェアバージョンとアップデート

サーバーの最新情報は、『[Sun Blade X3-2B \(旧 Sun Blade X6270 M3\) プロダクトノート](#)』に記載されています。プロダクトノートには、サーバーのハードウェアまたはソフトウェアの問題に関する詳細な情報が記載されています。

このドキュメントの最新バージョン、その他のサーバー固有のドキュメント、および関連ドキュメントは、次にあるサーバーモジュールドキュメントライブラリで入手できます:

<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=SunBladeX3-2B>

関連情報

- [13 ページの「Oracle VM のインストールオプション」](#)
- [21 ページの「Oracle VM Server のインストール」](#)

Oracle VM のインストールオプション

Oracle VM ソフトウェアを単一のサーバーにインストールするか複数のサーバーにインストールするかを選択できます。このドキュメントの適用範囲は、サーバー 1 台構成へのソフトウェアのインストールです。

単一サーバーへのインストール方法

次の表に、単一サーバーに使用できるインストール方法を示します。各インストール方法の手順については、[21 ページの「Oracle VM Server のインストール」](#)を参照してください。

メディアの配布方法	その他の要件
ローカルでの補助付き OS インストール – Oracle System Assistant を使用します。	モニター、USB キーボードとマウス、USB デバイス、および Oracle VM 配布メディア。詳細は、 14 ページの「Oracle System Assistant」 を参照してください。
リモートでの補助付き OS インストール – Oracle System Assistant を使用します。	リモートクライアントから OSA を起動するための Oracle ILOM に対するネットワークアクセス、Oracle VM 配布メディア (リモートクライアントからアクセス可能な DVD または ISO イメージ)。詳細は、 14 ページの「Oracle System Assistant」 を参照してください。
ローカルでの CD/DVD ドライブの使用 – サーバーに接続した物理 CD/DVD ドライブを使用します。	モニター、USB キーボードとマウス、USB CD/DVD ドライブ、および Oracle VM 配布メディア。
CD/DVD ドライブまたは CD/DVD .iso イメージを使用するリモート – Oracle ILOM リモートコンソールアプリケーションを実行しているリモートシステム上でリダイレクト先の物理 CD/DVD ドライブを使用します。	ブラウザを備えたリモートシステム、接続された物理 CD/DVD ドライブ、Oracle VM 配布メディア、およびサーバーの管理ポートへのネットワークアクセス。
PXE イメージ – PXE サーバーにインストールされた OS イメージを使用します。	OS イメージがインストールされた PXE サーバー。

複数台サーバーインストールオプション

複数台サーバーに対するソフトウェアのインストールには、Oracle Enterprise Manager Ops Center が利用できます。Oracle Enterprise Manager Ops Center の使用方法については、次を参照してください:

<http://www.oracle.com/us/products/enterprise-manager/opscenter/index.html>

関連情報

- 12 ページの「Oracle VM の概要」
- 21 ページの「Oracle VM Server のインストール」

Oracle System Assistant

- 14 ページの「Oracle System Assistant の概要」
- 15 ページの「Oracle System Assistant OS インストールタスク」
- 15 ページの「Oracle System Assistant の取得」

Oracle System Assistant の概要

Oracle System Assistant は、x86 Sun Fire および Sun Blade サーバー用の単一サーバーシステム起動/保守ツールです。これは、Oracle の Single System Management 製品と一連の関連ソフトウェアを統合して、サーバーを迅速かつ簡単に起動し保守できるようにするツール群を提供します。Oracle System Assistant のコンポーネントは次のとおりです:

- Hardware Management Pack
- 起動と保守のプロビジョニングタスク (OS のインストールタスクを含む) へのユーザーインタフェースアクセス
- Oracle Linux コマンド行環境
- オペレーティングシステムが使用するドライバとツール
- サーバー固有のファームウェア
- サーバー関連ドキュメント

Oracle System Assistant は、工場出荷時にインストールされる Sun Oracle x86 サーバー向けの新しいオプションです。OSA は必要なすべてのツールとドライバを備えており、ほとんどのサーバーに取り付けられている USB ドライブに格納されています。

関連情報

- [15 ページの「Oracle System Assistant OS インストールタスク」](#)
- [15 ページの「Oracle System Assistant の取得」](#)

Oracle System Assistant OS インストールタスク

Oracle System Assistant OS インストールタスクは、サポートされている OS のインストールを支援します。OS インストールメディアを用意すれば、Oracle System Assistant が示す手順に従ってインストールプロセスを実行できます。サーバーのハードウェア構成に基づいて、適切なドライバも取得してくれます。

OS のインストールタスクは、サーバーでサポートされているすべてのオペレーティングシステムで利用できるわけではありません。ただし、サーバーでサポートされている OS をインストールすれば、Oracle System Assistant を使用して、OS ドライバに加えてすべてのファームウェアコンポーネント (BIOS、Oracle ILOM、HBA、エクспанダ) を更新できます。

Oracle System Assistant には、ローカルまたはリモートのどちらからでもアクセスできます。サーバーのインストールが終了した直後の場合、Oracle System Assistant をローカルで (サーバーの側にしながら) 使用することで、サーバーを迅速かつ効率的に起動できます。サーバーの稼働後は、すべての機能を維持しながら、Oracle System Assistant にリモートで便利にアクセスできます。

関連情報

- [14 ページの「Oracle System Assistant の概要」](#)
- [15 ページの「Oracle System Assistant の取得」](#)

Oracle System Assistant の取得

Oracle System Assistant は、サーバーにすでにインストールされていることもあります。サーバーに Oracle System Assistant がインストールされているかどうかを確認する方法、または更新およびリカバリ手順の実行方法の詳細は、『[Sun Blade X3-2B \(旧 Sun Blade X6270 M3\) 管理ガイド](#)』を参照してください。

関連情報

- [14 ページの「Oracle System Assistant の概要」](#)
- [15 ページの「Oracle System Assistant OS インストールタスク」](#)

Oracle VM Server インストールの準備

ここでは、Oracle VM サーバーをインストールするためのサーバーモジュールの準備に必要なタスクについて説明します。

説明	リンク
ローカル、リモート、PXE インストールのための環境を準備します。	17 ページの「インストール環境の準備」
必要に応じて、仮想ディスクを作成し、インストール用のブートディスクを設定します。	19 ページの「仮想ディスクの作成およびブートディスクの設定」
必要に応じて、BIOS モードを設定します。	19 ページの「BIOS モードの設定」

インストール環境の準備

使用するインストール方法に一致する手順を選択します。

- [17 ページの「ローカルインストールの設定」](#)
- [18 ページの「リモートインストールまたはPXE インストールの設定」](#)

▼ ローカルインストールの設定

- 1 **Sun Blade X3-2B と Oracle VM ソフトウェアのプロダクトノートを確認します。**

- Sun Blade X3-2B のドキュメントは、次の Web サイトで入手できます：

<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=SunBladeX3-2B>

- Oracle VM ソフトウェアのドキュメントは次で入手できます：

http://download.oracle.com/docs/cd/E20065_01/index.htm

- 2 **サーバーモジュールに OS がインストールされていないことを確認します。**

サーバーモジュールに Oracle VM がインストールされており、そのインストール済みバージョンを使用する場合の構成手順については、『[Sun Blade X3-2B \(旧 Sun Blade X6270 M3\) 設置ガイド](#)』を参照してください。

- 3 <http://www.oracle.com/virtualization> から Oracle VM ソフトウェアをダウンロードします。
- 4 ダウンロードした .iso イメージを使用して、CD/DVD を作成します。
- 5 サーバーモジュールドングルケーブルに次を接続します:
 - DVD-ROM ドライブ
 - USB キーボードとマウス
 - モニター

注- ネットワークに接続されたサーバーのオペレーティングシステムを構成する際には、Oracle VM Server で使用されている各ネットワークインタフェースの論理名 (OS によって割り当てられる) および物理名 (MAC アドレス) の指定が必要となる場合があります。

- 次の手順
- 19 ページの「仮想ディスクの作成およびブートディスクの設定」
 - 21 ページの「Oracle VM Server のインストール」

▼ リモートインストールまたは PXE インストールの設定

この手順では、ローカルサーバーとは Oracle VM Server または Oracle VM Manager がインストールされるサーバー、リモートコンソールとは Oracle ILOM Remote Console 機能を介してローカルサーバーに接続されているリモートクライアント、PXE サーバーとはローカルサーバーにインストールする PXE イメージがインストールされるサーバーを指します。

- 1 **Sun Blade X3-2B と Oracle VM ソフトウェアのリリースノートを確認します。**
 - Sun Blade X3-2B のドキュメントは、次の Web サイトで入手できます:
<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=SunBladeX3-2B>
 - Oracle VM ソフトウェアのドキュメントは次で入手できます:
http://download.oracle.com/docs/cd/E20065_01/index.htm
- 2 サーバーモジュールに OS がインストールされていないことを確認します。
サーバーモジュールに Oracle VM がインストールされており、そのインストール済みバージョンを使用する場合の構成手順については、『[Sun Blade X3-2B \(旧 Sun Blade X6270 M3\) 設置ガイド](#)』を参照してください。

- 3 <http://www.oracle.com/virtualization> から **Oracle VM** ソフトウェアをダウンロードします。
- 4 リモートコンソールを使用する場合は、次のデバイスをリモートクライアントに接続します。**PXE** サーバーを使用する場合は、次をローカルサーバーに接続します:
 - DVD-ROM ドライブ (メディアからインストールする場合)
 - USB キーボードとマウス。
 - モニター。

注- ネットワークに接続されたサーバーのオペレーティングシステムを構成する際には、**Oracle VM Server** で使用されている各ネットワークインタフェースの論理名 (OS によって割り当てられる) および物理名 (MAC アドレス) の指定が必要となる場合があります。

- 5 リモートコンソールを使用する場合は、**ILOM 3.1** のドキュメントに示された手順に従って、**Oracle ILOM** リモートコンソールセッションを起動します。

- 次の手順
- 19 ページの「仮想ディスクの作成およびブートディスクの設定」
 - 21 ページの「**Oracle VM Server** のインストール」

仮想ディスクの作成およびブートディスクの設定

Sun Storage RAID 6Gb/s SAS RAID REM HBA (SGX-SAS6-R-REM-Z) がサーバーモジュールに取り付けられている場合は、ESXi 5 ソフトウェアをインストールする前に仮想ディスクを作成する必要があります。Sun Storage 6Gb/s SAS REM HBA (SGX-SAS6-REM-Z) が取り付けられている場合は、これを行う必要はありません。

詳細は、『**Sun Blade X3-2B (旧 Sun Blade X6270 M3) 設置ガイド**』の「オペレーティングシステムをインストールするストレージデバイスの準備」を参照してください。

関連情報

- 21 ページの「**Oracle VM Server** のインストール」

▼ BIOS モードの設定

BIOS ファームウェアは、レガシー BIOS と UEFI (Unified Extensible Firmware Interface) の両方をサポートしていますが、デフォルト設定は Legacy です。Oracle VM は、現時点では、レガシー BIOS モードのみをサポートしています。Oracle VM では、OS をインストールする前に、BIOS がレガシーモードに設定されていることを確認する必要があります。

BIOS モードが UEFI モードに設定されている場合は、次の手順を実行してレガシーモードに設定します。

- 1 サーバーの電源を入れます。
コンソールに POST メッセージが表示されます。
- 2 メッセージに注目し、プロンプトが表示されたら、**F2** を押して **BIOS 設定ユーティリティー** にアクセスします。
BIOS 設定ユーティリティーのメイン画面が表示されます。
- 3 **BIOS 設定ユーティリティー** で、左右の矢印キーを使用して「**Boot**」画面に移動します。
「**Boot Menu**」画面が表示されます。
- 4 下矢印キーを使用して、「**UEFI/BIOS Boot Mode**」フィールドを選択します。
- 5 **Enter** キーを押し、上下の矢印キーを使用して「**Legacy BIOS**」を選択します。
- 6 変更を保存して **BIOS 設定ユーティリティー** を終了するには、**F10** を押します。

次の手順 [21 ページの「Oracle VM Server のインストール」](#)

Oracle VM Server のインストール

手順	説明	リンク
1	Oracle System Assistant を使用して Oracle VM Server をインストールします。	21 ページの「Oracle VM Server をインストールする (Oracle System Assistant)」
2	ローカルまたはリモートのインストール方法を使用して手動で Oracle VM Server をインストールします。	25 ページの「Oracle VM Server のインストール (手動)」

▼ Oracle VM Server をインストールする (Oracle System Assistant)

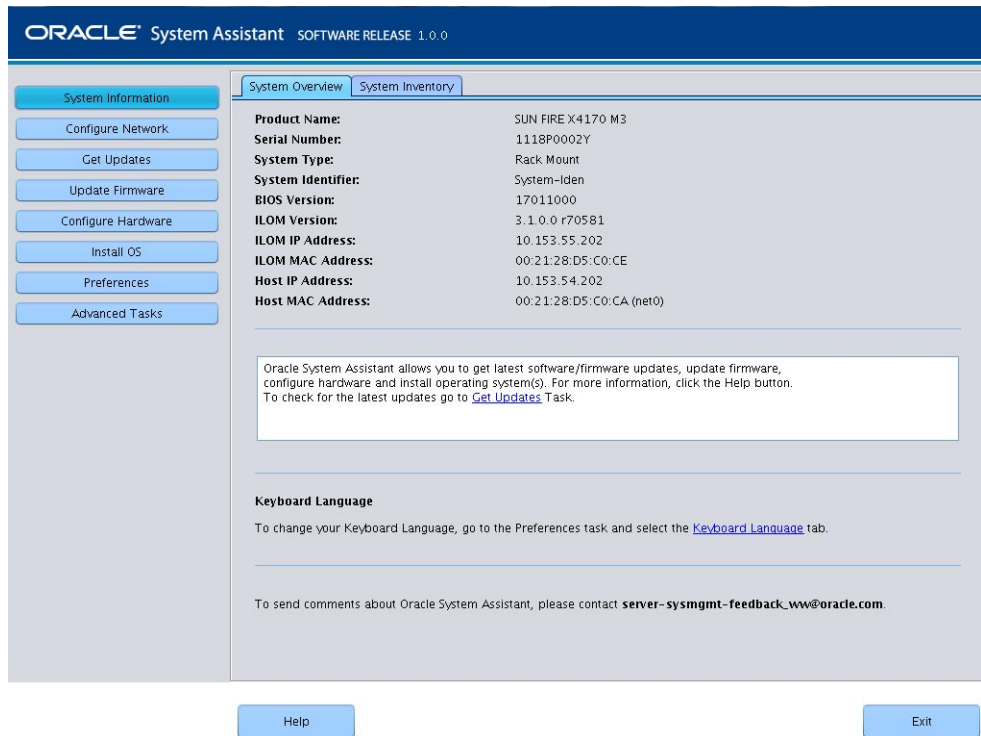
Oracle System Assistant の OS インストールタスクは、サポートされているバージョンの Oracle VM Server の OS インストールを支援します。

- 始める前に
- [17 ページの「Oracle VM Server インストールの準備」](#) に説明されている手順を実行します。

次の点にも留意してください:

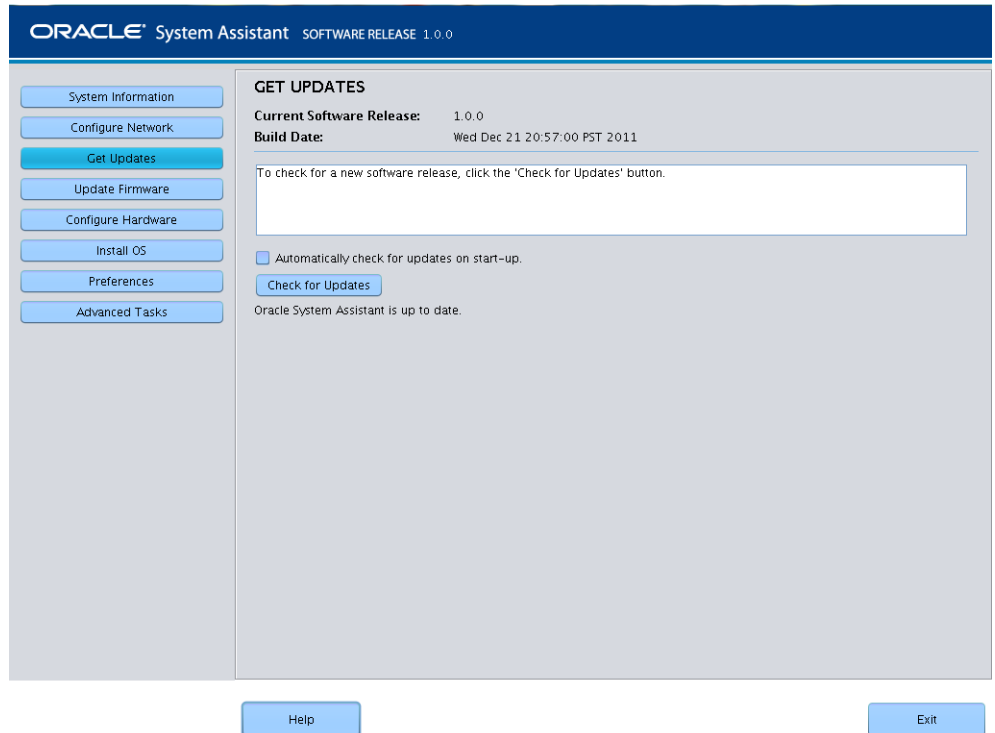
- ローカルインストールの場合は、プロンプトが表示されたら、接続された物理 CD/DVD-ROM ドライブにインストールメディアを挿入します。
 - リモートインストールの場合は、リモートコンソールシステムの CD/DVD-ROM ドライブにインストールメディアを挿入します。Oracle ILOM リモートコンソールの「Devices」メニューから、「CD-ROM」を選択していることを確認してください。
 - ISO イメージを使用する場合は、リモートコンソールシステムから ISO イメージにアクセスできることを確認します。Oracle ILOM リモートコンソールの「Devices」メニューから、「CD-ROM Image」を選択していることを確認してください。
- 1 サーバーがスタンバイ電源モードになっていることを確認します。
 - 2 サーバーをブートし、モニターまたはリモートコンソール画面を注視して、プロンプトが表示されたら **F9** キーを押します。

- 3 プロンプトが表示されたら **F9** キーを押します。
Oracle System Assistant のメイン画面が表示されます。



- 4 Oracle System Assistant アプリケーションを更新するには、「Get Updates」ボタンをクリックします。

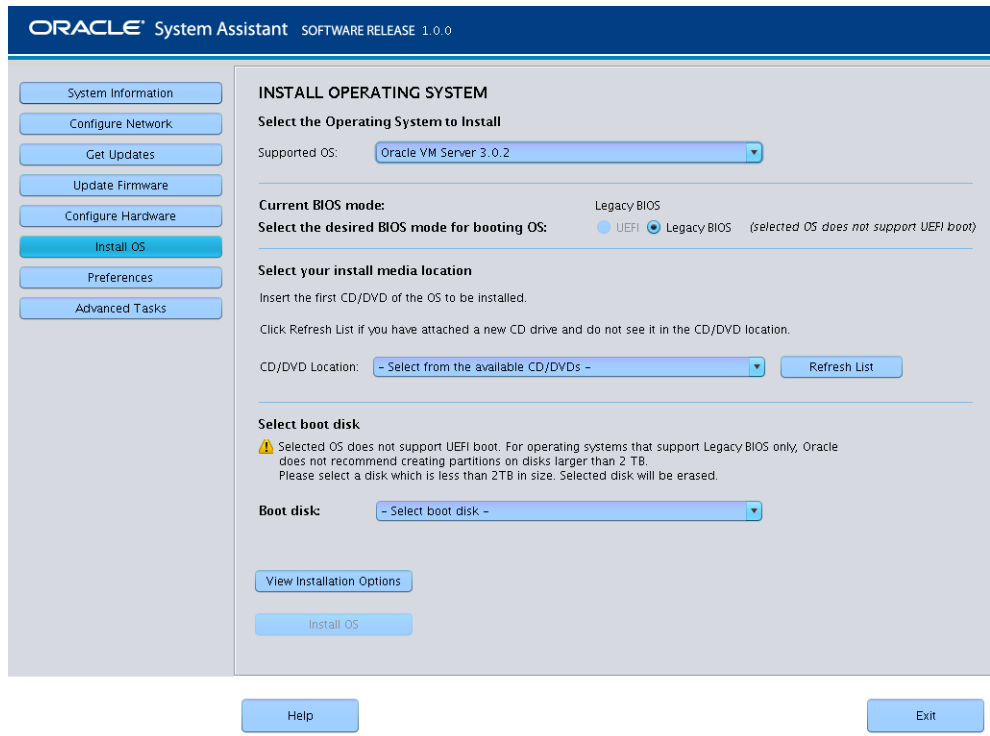
注 - Oracle System Assistant を更新するには、サーバーの Web アクセスが必要です。Oracle System Assistant を初めて使用する場合は、ネットワークアクセスを設定する必要があります。『[Sun Blade X3-2B \(旧 Sun Blade X6270 M3\) 管理ガイド](#)』を参照してください。



- 5 「Check for Updates」ボタンをクリックして、使用可能なファームウェアおよびソフトウェアの更新が存在するかどうかを確認します。

最新のソフトウェアアップデートがシステムに適用済みの場合は、Oracle System Assistant が最新であることを知らせるメッセージが表示されます。

- 6 OSをインストールするには、「Install OS」ボタンをクリックします。
「Install OS」画面が表示されます。



- 7 「Supported OS」ドロップダウンリストから特定のOSを選択します。
- 8 「Select the media location」セクションでインストールメディアの場所を指定します。
これは、OS配布メディアの場所です。
インストールにリモートコンソールを使用する場合は、「Devices」ドロップダウンメニューでリモートメディアの場所を選択します。
- 9 「Select boot disk」セクションで、「Boot disk」リストからブートデバイスを選択します。
これは、OSがインストールされるデバイスです。



注意-データが失われます。OSのインストールによって、ディスクの内容が消去されます。選択したディスク上のデータはすべて消去されます。

- 10 「Install OS」をクリックします。

- 11 プロンプトに従ってインストールを完了します。
サーバーがブートします。

- 次の手順
- 必要に応じて、Oracle VM Manager をインストールします。次を参照してください
http://download.oracle.com/docs/cd/E20065_01/index.htm
 - 31 ページの「Oracle VM インストールの完了」

Oracle VM Server のインストール (手動)

Oracle VM Server のインストールに Oracle System Assistant を使用しない場合は、Oracle VM Server を手動でインストールするための次のいずれかの手順を参照してください:

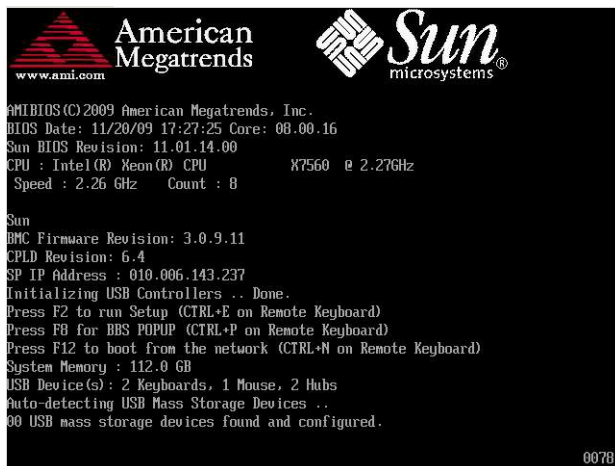
- 25 ページの「ローカルまたはリモートのメディアを使用して Oracle VM Server をインストールする」
- 28 ページの「PXE Server を使用した Oracle VM Server のインストール」

▼ ローカルまたはリモートのメディアを使用して Oracle VM Server をインストールする

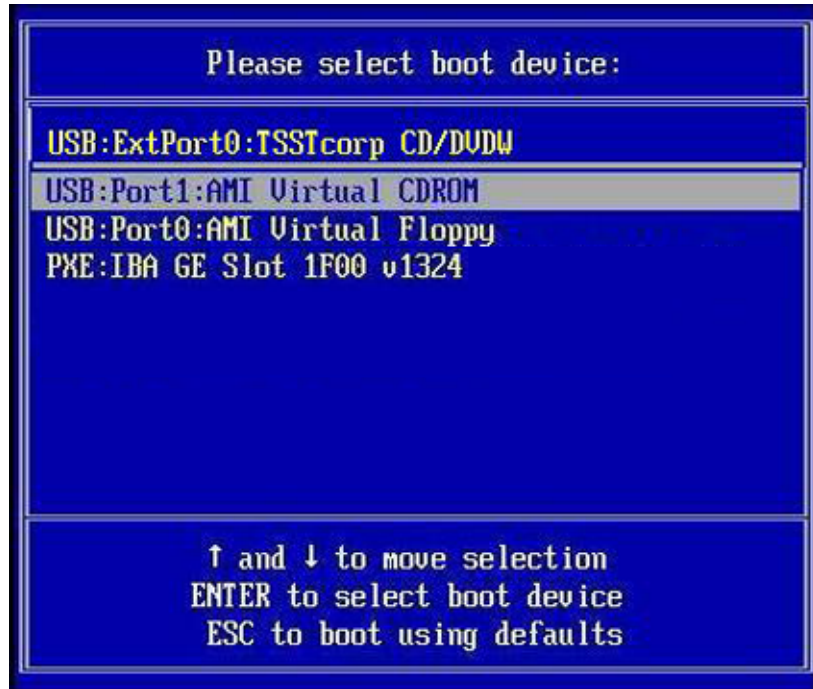
始める前に 17 ページの「Oracle VM Server インストールの準備」に示した手順を実行します。

- 1 Oracle VM Server 配布 CD/DVD を挿入するか(まだ挿入していない場合)、17 ページの「インストール環境の準備」で選択した方法に対応する .iso イメージ配布メディアにアクセスします。

- 2 サーバーの電源を入れるか、またはリセットします。
BIOS メッセージがコンソールに表示されます。



- 3 メッセージで選択肢が表示されたら、**F8**を押します。
しばらくすると、メニューにブートデバイスの選択肢が表示されます (次の例を参照)。



- 4 リストからブートデバイスを選択します。
.iso イメージを使用する場合は、物理 CD/DVD または仮想 CD/DVD からブートできます。
制御がメディア上の OS インストールプログラムに移ります。
- 5 ブートプロンプトで、**Enter**を押します。
- 6 プロンプトに従ってソフトウェアをインストールします。
Oracle VM Server と Oracle VM Agent ソフトウェアがインストールされます。
詳細については、次にある Oracle VM Server のインストールドキュメントを参照してください:
http://download.oracle.com/docs/cd/E20065_01/index.htm
- 7 **Oracle VM** のインストールを完了させます。31 ページの「**Oracle VM インストールの完了**」を参照してください。

- 次の手順
- 必要に応じて、Oracle VM Manager をインストールします。次を参照してください
http://download.oracle.com/docs/cd/E20065_01/index.htm
 - 31 ページの「Oracle VM インストールの完了」

PXE Server を使用した Oracle VM Server のインストール

このセクションでは、PXE ネットワーク環境から Oracle VM サーバーをインストールする方法について説明します。このセクションでは、次のトピックについて説明します:

- 28 ページの「PXE サーバーのインストール要件」
- 29 ページの「PXE Server を使用して Oracle VM Server をインストールする」

PXE サーバーのインストール要件

この手順では、次のいずれかのソースからインストールメディアをブートすることを前提にしています:

- Oracle VM ソフトウェア CD または DVD セット (最小バージョン 3.0) 内蔵または外付け CD/DVD
- Oracle VM ソフトウェア CD または DVD セット (最小バージョン 3.0) .iso DVD イメージまたは KickStart イメージ (ネットワークリポジトリ)

Oracle VM PXE インストールを実行するには、次の要件を満たしている必要があります:

注 - KickStart は自動インストールツールです。システム管理者はこのツールを利用して、通常は一般的な Oracle VM のインストール中に入力される、インストールと構成のパラメータの一部またはすべての設定値を含めた、単一のイメージを作成できます。通常、KickStart イメージは 1 つのネットワークサーバー上に配置され、インストール時に複数のシステムによって読み込まれます。

- KickStart イメージを使用してインストールを行う場合、次の操作が必要です:
 - KickStart ファイルを作成します。
 - KickStart ファイルを含むブートメディアを作成するか、ネットワーク上で KickStart ファイルを公開します。
- PXE を使用してネットワーク経由でインストールメディアをブートするには、次の操作が必要です:
 - インストールツリーをエクスポートするようにネットワーク (NFS、FTP、HTTP) サーバーを構成します。
 - PXE のブートに必要なファイルを TFTP サーバー上に構成します。

- PXE 構成からブートするように、サーバーの MAC ネットワークポートアドレスを構成します。
- DHCP (動的ホスト構成プロトコル) を構成します。

▼ PXE Server を使用して Oracle VM Server をインストールする

- 1 PXE ネットワーク環境が正しく設定されており、**Oracle VM** のインストールメディアを PXE ブートで利用できることを確認します。
- 2 サーバーをリセットします。例:
 - Oracle ILOM Web インタフェースで、「Host Management」 > 「Power Control」をクリックし、次に「Action」リストから「Reset」を選択します。
 - Oracle ローカルサーバーで、サーバーのフロントパネルにある電源ボタンを約 1 秒押してサーバーの電源を切り、電源ボタンをもう一度押してサーバーの電源を入れます。
 - サーバー SP の Oracle ILOM CLI で「**reset /System**」と入力します。BIOS 画面が表示されます。

注- 次のイベントがすぐに発生するため、次の手順では集中する必要があります。画面に表示される時間が短いため、メッセージを注視してください。スクロールバーが表示されないように画面のサイズを拡大してもかまいません。

- 3 BIOS 画面で、**F8** キーを押して、一時ブートデバイスを指定します。
「Please Select Boot Device」メニューが表示され、使用可能なブートデバイスが一覧表示されます。
- 4 「**Boot Device**」メニューで、**PXE** ネットワークインストールサーバーと通信するように構成されたネットワークポートを選択します。
ネットワークブートローダーが読み込まれ、ブートプロンプトが表示されて、インストール元の PXE サーバーを選択できるようになります。数秒後、インストールカーネルの読み込みが開始されます。
- 5 プロンプトに従ってソフトウェアをインストールします。
Oracle VM Server がインストールされます。

詳細については、次にある Oracle VM Server のインストールドキュメントを参照してください:

http://download.oracle.com/docs/cd/E20065_01/index.htm

- 6 **Oracle VM** のドライバを更新します。[32 ページの「すべての Oracle VM ドライバをインストールする」](#)を参照してください。

- 次の手順
- 必要に応じて、Oracle VM Manager をインストールします。次を参照してください
http://download.oracle.com/docs/cd/E20065_01/index.htm
 - [31 ページの「Oracle VM インストールの完了」](#)

Oracle VM インストールの完了

次の各トピックでは、Oracle VM ソフトウェアのインストールを完了させる方法について説明します:

タスク	リンク
サーバーシステムツールをインストールします。	31 ページの「サーバーシステムツールにアクセスする」
すべてのドライバを手動で更新します。	32 ページの「すべての Oracle VM ドライバをインストールする」
特定のドライバを手動で更新します。	33 ページの「個々の Oracle VM ドライバをインストールする」
Oracle VM リソースの作成と管理について説明します。	34 ページの「Oracle VM リソースの作成と管理」

▼ サーバーシステムツールにアクセスする

Oracle System Assistant USB デバイスまたは Oracle サポートサイトからサーバーシステムツール (追加ソフトウェア) にアクセスするには、次の手順を使用します。

始める前に Oracle System Assistant がシステム上にインストールされている場合は、Oracle System Assistant の「Get Updates」タスクを実行して最新のツールが使用可能になっていることを確認します。

- 1 次のいずれかを実行します:
 - 使用しているシステムに **Oracle System Assistant** がインストールされている場合は、サーバー上の **Oracle System Assistant USB** デバイスに移動します。
USB デバイスの名前は ORACLE_SSM です。

- システムに **Oracle System Assistant** がインストールされていない場合は、次の手順を実行します:
 - a. サーバーシステムの最新のツールおよびドライバを **My Oracle Support** サイトからサーバーにダウンロードまたはコピーします。
システムのツールとドライバにアクセスする方法の詳細は、[35 ページ](#)の「**サーバーファームウェアとソフトウェアの入手**」を参照してください。
 - b. パッケージを解凍してファイルを展開します。
- 2 次のディレクトリに移動します:
OracleVM/ *version*/Tools/hmp-tools
ここで、*version* は、インストールされている Oracle VM のバージョンです。
- 3 **Hardware Management Pack** をインストールするには、次にある **Oracle Hardware Management Pack** のドキュメントを参照してください。
<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ohmp>

次の手順 [34 ページ](#)の「**Oracle VM リソースの作成と管理**」

▼ すべての **Oracle VM** ドライバをインストールする

Oracle VM のインストールに Oracle System Assistant を使用しなかった場合に、サーバーシステムのすべてのドライバを更新するには、次の手順を使用します。特定のドライバをインストールする方法については、[33 ページ](#)の「**個々の Oracle VM ドライバをインストールする**」を参照してください。

- 1 次のいずれかを実行します:
 - システムに **Oracle System Assistant** がインストールされている場合は、**Oracle System Assistant USB** デバイスに移動します。
USB デバイスの名前は ORACLE_SSM です。
 - システムに **Oracle System Assistant** がインストールされていない場合は、次の手順を実行します:
 - a. サーバーシステムの最新のツールおよびドライバを **My Oracle Support** サイトからサーバーにダウンロードまたはコピーします。
システムのツールとドライバにアクセスする方法の詳細は、[35 ページ](#)の「**サーバーファームウェアとソフトウェアの入手**」を参照してください。
 - b. パッケージを解凍してファイルを展開します。

- 2 **OVM Install Pack** ディレクトリに移動します:
`OracleVM/version/InstallPack`
ここで、*version* は、インストールされている Oracle VM のバージョンです。
- 3 インストールバックアップアプリケーション **InstallPack.py** を実行します。
- 4 ドライバのインストールが終了するまで、インストールバックアップアプリケーションを続行します。
- 5 サーバーを再起動します。

次の手順 [34 ページの「Oracle VM リソースの作成と管理」](#)

▼ 個々の Oracle VM ドライバをインストールする

Sun Blade 6000 Virtualized 40 GbE Network Express Module または Sun Blade 6000 Virtualized Multi-Fabric 10GbE M2 Network Express Module がシャーシに取り付けられている場合で、どちらか一方の NEM のドライバをインストールしたいときに、サーバーシステムドライバを更新するには、次の手順を実行します。

Oracle VM のすべてのドライバをインストールする場合は、[32 ページの「すべての Oracle VM ドライバをインストールする」](#)を参照してください。

- 1 次のいずれかを実行します:
 - システムに **Oracle System Assistant** がインストールされている場合は、**Oracle System Assistant USB** デバイスに移動します。
USB デバイスの名前は ORACLE_SSM です。
 - システムに **Oracle System Assistant** がインストールされていない場合は、次の手順を実行します:
 - a. サーバーシステムの最新のツールおよびドライバを **My Oracle Support** サイトからサーバーにダウンロードまたはコピーします。
システムのツールとドライバにアクセスする方法の詳細は、[35 ページの「サーバーファームウェアとソフトウェアの入手」](#)を参照してください。
 - b. パッケージを解凍してファイルを展開します。
- 2 **OVM Install Pack** ディレクトリに移動します:
`OracleVM/version/Drivers`
ここで、*version* は、インストールされている Oracle VM のバージョンです。

- 3 インストールするドライバに対応するディレクトリにアクセスします:
NEM-SOL: Sun Blade 6000 Virtualized 40 GbE Network Express Module ドライバの場合
hxge: Sun Blade 6000 Virtualized Multi-Fabric 10GbE M2 Network Express Module ドライバの場合
各ディレクトリにはドライバのインストール手順が含まれています。
- 4 ドライバをインストールします。
- 5 サーバーを再起動します。

次の手順 [34 ページの「Oracle VM リソースの作成と管理」](#)

Oracle VM リソースの作成と管理

Oracle VM Server (と Oracle VM Agent) および Oracle VM Manager をインストールしたら、仮想リソースを作成および管理できます。

- 共有ストレージリポジトリを作成します。耐障害性のために、このストレージを使用している複数の仮想マシンをクラスタ構成で設定できます。共有ストレージのオプションを次に示します:
 - インターネット SCSI (Internet SCSI、iSCSI) ネットワークプロトコルを使用する Oracle クラスタファイルシステム (Oracle Cluster File System、OCFS2)
 - ストレージエリアネットワーク (Storage Area Network、SAN) を使用する OCFS2
 - ネットワークファイルシステム (Network File System、NFS)
 - マルチパスフェイルオーバーを備えたパーティション
- 仮想マシンのサーバープールを作成します。
- そのサーバープールに仮想マシンを作成します。

詳細については、次にある Oracle VM のインストールドキュメントを参照してください:

http://download.oracle.com/docs/cd/E20065_01/index.htm

関連情報

- Oracle VM のドキュメントについては、次を参照してください:
http://download.oracle.com/docs/cd/E20065_01/index.htm
- [21 ページの「Oracle VM Server のインストール」](#)

サーバーファームウェアとソフトウェアの入手

このセクションでは、サーバーのファームウェアとソフトウェアにアクセスするためのオプションについて説明します。

説明	リンク
ファームウェアとソフトウェアのアップデートについて説明します。	35 ページの「ファームウェアとソフトウェアのアップデート」
ファームウェアとソフトウェアを入手するためのオプションについて学習します。	36 ページの「ファームウェアおよびソフトウェア入手のオプション」
入手可能なファームウェアとソフトウェアのパッケージを示します。	36 ページの「入手可能なソフトウェアリリースパッケージ」
Oracle System Assistant、My Oracle Support、または物理メディアのリクエストによって、ファームウェアとソフトウェアのパッケージを入手します。	38 ページの「ファームウェアとソフトウェアの入手」
ファームウェアとソフトウェアのアップデートをインストールします。	42 ページの「アップデートのインストール」

ファームウェアとソフトウェアのアップデート

サーバー用のハードウェアドライバやツールなどのファームウェアおよびソフトウェアは、定期的に更新されます。アップデートはソフトウェアリリースとして公開されます。ソフトウェアリリースは、サーバーで使用できるすべてのファームウェア、ハードウェアドライバ、およびユーティリティを含む、ダウンロード(パッチ)のセットです。これらはすべてまとめてテストされています。ダウンロードに含まれている Read Me ドキュメントに、前回のソフトウェアリリースから変更された点と変更されていない点が説明されています。

サーバーのファームウェアとソフトウェアは、ソフトウェアリリースが入手可能になりしだい、更新してください。ソフトウェアリリースには、多くの場合はバグの修正が含まれていて、更新によってサーバーモジュールソフトウェアは、最新のシャーシファームウェアおよびその他のシャーシコンポーネントのファームウェアやソフトウェアとの互換性を確保できます。

ダウンロードパッケージ内の Read Me ファイルおよび『Sun Blade X3-2B (旧 Sun Blade X6270 M3) プロダクトノート』には、ダウンロードパッケージ内の更新済みのファイル、および現在のリリースで修正されているバグに関する情報が記載されています。さらに、プロダクトノートには、最新のシャシーのファームウェアでサポートされているサーバーモジュールソフトウェアのバージョンに関する情報も記載されています。

ファームウェアおよびソフトウェア入手のオプション

次のオプションのいずれかを使用して、サーバーの最新ファームウェアおよびソフトウェアセットを入手します:

- **Oracle System Assistant** – Oracle System Assistant は、出荷時にインストールされる Oracle サーバー用の新しいオプションであり、サーバーのファームウェアおよびソフトウェアを簡単にダウンロードおよびインストールできるように支援します。

Oracle System Assistant の使用方法の詳細は、『Sun Blade X3-2B (旧 Sun Blade X6270 M3) 管理ガイド』の「[Oracle ILOM Web インタフェースからの Oracle System Assistant へのアクセス](#)」を参照してください。

- **My Oracle Support** – システムのすべてのファームウェアとソフトウェアは、My Oracle Support (<http://support.oracle.com>) から入手できます。

My Oracle Support で入手できるものの詳細は、[36 ページの「入手可能なソフトウェアリリースパッケージ」](#)を参照してください。

My Oracle Support からソフトウェアリリースをダウンロードする方法は、[38 ページの「My Oracle Support を使用してファームウェアとソフトウェアをダウンロードする」](#)を参照してください。

- **物理メディアのリクエスト (PMR)** – My Oracle Support から入手できるダウンロード (パッチ) が含まれている DVD をリクエストできます。

詳細は、[40 ページの「物理メディアのリクエスト \(オンライン\)」](#)を参照してください。

入手可能なソフトウェアリリースパッケージ

My Oracle Support では、ダウンロードは製品ファミリ、製品、およびバージョン別にグループ分けされています。バージョンには1つ以上のダウンロード (パッチ) が含まれます。

サーバーとブレードの場合、パターンは似ています。製品種別はサーバーです。サーバーごとにリリースセットが含まれます。これらのリリースは本当のソフトウェア製品のリリースではなく、サーバー用のアップデートのリリースです。これらのアップデートはソフトウェアリリースと呼ばれ、まとめてテスト済みの複数

のダウンロードで構成されます。各ダウンロードには、ファームウェア、ドライバ、またはユーティリティが含まれます。

My Oracle Support には、次の表に示したとおりの、このサーバーファミリ向けのダウンロードタイプのセットが含まれます。これらは物理メディアのリクエスト (PMR) によってリクエストすることもできます。Oracle System Assistant を使用しても、同じファームウェアおよびソフトウェアをダウンロードできます。

パッケージ名	説明	このパッケージをダウンロードするタイミング
X3-2B SWversion – Firmware Pack	Oracle ILOM、BIOS、およびオプションカードファームウェアを含む、すべてのシステムファームウェア。	最新のファームウェアが必要なとき。
X3-2B SWversion – OS Pack	OS パックは、サポートされているオペレーティングシステムのバージョンごとに入手できます。各 OS パックには、該当のバージョンの OS 用のすべてのツール、ドライバ、およびユーティリティのパッケージが含まれています。 ソフトウェアには、Oracle Hardware Management Pack および LSI MegaRAID ソフトウェアが含まれます。	OS 固有のドライバ、ツール、またはユーティリティをアップデートする必要があるとき。
X3-2B SWversion – All packs	Firmware Pack、すべての OS Pack、およびすべてのドキュメントを含みます。 このパックに SunVTS または Oracle System Assistant のイメージは含まれません。	システムファームウェアと OS 固有ソフトウェアの組み合わせをアップデートする必要があるとき。
X3-2B SWversion – Diagnostics	SunVTS 診断イメージ。	SunVTS 診断イメージが必要なとき。
X3-2B SWversion – Oracle System Assistant Updater	Oracle System Assistant アップデータおよび ISO アップデートイメージ。	Oracle System Assistant を手動で復旧またはアップデートする必要があるとき。

各ダウンロードは zip ファイルで、Read Me と、ファームウェアまたはソフトウェアのファイルを含むサブディレクトリのセットが含まれています。Read Me ファイルに

は、前回のソフトウェアリリース以降に変更されたコンポーネントと、修正済みのバグの詳細が記載されています。これらのダウンロードのディレクトリ構造の詳細は、『Sun Blade X3-2B (旧 Sun Blade X6270 M3) 管理ガイド』を参照してください。

ファームウェアとソフトウェアの入手

このセクションでは、ソフトウェアリリースファイルをダウンロードまたはリクエストする方法について説明します。

注 - Oracle System Assistant を使用して、最新のソフトウェアリリースを簡単にダウンロードして使用することもできます。詳細は、『Sun Blade X3-2B (旧 Sun Blade X6270 M3) 管理ガイド』を参照してください。

アップデートされたファームウェアとソフトウェアには、ほかにも2つの入手方法があります。

- 38 ページの「My Oracle Support を使用してファームウェアとソフトウェアをダウンロードする」
- 39 ページの「物理メディアをリクエストする」

▼ My Oracle Support を使用してファームウェアとソフトウェアをダウンロードする

- 1 <http://support.oracle.com> にアクセスします
- 2 My Oracle Support にサインインします。
- 3 ページ上部にある「パッチと更新版」タブをクリックします。
「パッチと更新版」画面が表示されます。
- 4 「検索」画面で、「製品またはファミリー (拡張検索)」をクリックします。
画面に検索フィールドが表示されます。
- 5 「製品」フィールドで、ドロップダウンリストから製品を選択します。
あるいは、製品名 (たとえば、Sun Blade X3-2B) の全体または一部を、一致するものが表示されるまで入力します。

- 6 「リリース」フィールドで、ドロップダウンリストからソフトウェアリリースを選択します。
入手可能なすべてのソフトウェアリリースを表示するには、フォルダを展開します。
- 7 「検索」をクリックします。
ソフトウェアリリースは、ダウンロード (パッチ) のセットで構成されます。
入手可能なダウンロードの説明については、[36 ページの「入手可能なソフトウェアリリースパッケージ」](#)を参照してください。
- 8 パッチを選択するには、パッチ名の横にあるチェックボックスをクリックします (複数のパッチを選択できます)。
アクションパネルがポップアップ表示されます。このパネルには複数のアクションのオプションが表示されます。
- 9 アップデートをダウンロードするには、ポップアップパネルの「ダウンロード」をクリックします。
自動的にダウンロードが開始されます。

物理メディアをリクエストする

手続き上、Oracle Web サイトからダウンロードできない場合は、物理メディアのリクエスト (PMR) によって最新のソフトウェアリリースを入手できます。

次の表で、物理メディアのリクエストを行うための大まかなタスクについて説明し、詳細情報のリンクを示します。

説明	リンク
リクエストを行うために必要な情報を収集します。	39 ページの「物理メディアのリクエスト用の情報を収集する」
オンラインで、または Oracle サポートに電話することで、物理メディアをリクエストします。	40 ページの「物理メディアのリクエスト (オンライン)」 41 ページの「物理メディアのリクエスト (電話)」

物理メディアのリクエスト用の情報を収集する

物理メディアのリクエスト (PMR) を行うには、サーバーの保証またはサポート契約が必要です。

PMR を実行する前に、次の情報を収集します:

- 製品名、ソフトウェアリリースのバージョン、および必要なパッチを把握します。最新のソフトウェアリリースと、リクエストするダウンロードパッケージ(パッチ)の名前がわかっていると、より簡単にリクエストを行うことができます。
- *My Oracle Support* にアクセスできる場合 – 38 ページの「[My Oracle Support を使用してファームウェアとソフトウェアをダウンロードする](#)」の手順に従って、最新のソフトウェアリリースを確認し、入手可能なダウンロード(パッチ)を表示します。パッチのリストを表示したあとに、ダウンロード手順を続けない場合は、「パッチ検索結果」ページから移動できます。
- *My Oracle Support* にアクセスできない場合 – 36 ページの「[入手可能なソフトウェアリリースパッケージ](#)」にある情報を使って、目的のパッケージを判断してから、最新のソフトウェアリリース用のこれらのパッケージをリクエストしてください。
- 送付先情報を用意します。リクエストのためには、連絡先、電話番号、電子メールアドレス、会社名、および送付先住所を提供する必要があります。

▼ 物理メディアのリクエスト(オンライン)

始める前に リクエストを行う前に、39 ページの「[物理メディアのリクエスト用の情報を収集する](#)」に記載されている情報を収集します。

- 1 <http://support.oracle.com> にアクセスして、サインインします。
- 2 ページの右上隅にある「問合せ先」リンクをクリックします。
- 3 「リクエストの説明」セクションで、次を入力します:
 - a. 「リクエスト・カテゴリ」ドロップダウンリストから、次を選択します:
物理メディアのリクエスト(レガシー Oracle 製品、Primavera、BEA、Sun 製品)
 - b. 「リクエスト・サマリー」フィールドに、次を入力します:
Sun Blade Sun Blade X3-2B の最新ソフトウェアリリースの PMR
- 4 「リクエスト詳細」セクションで、次の表に示されている質問に回答します:

質問	回答
物理ソフトウェアメディアの送付リクエストですか?	はい
どの製品ラインに関係するメディアのリクエストですか?	Sun 製品

質問	回答
パッチのダウンロードに必要なパスワードの確認ですか？	いいえ
CD/DVD でのパッチのリクエストですか？	はい
パッチを CD や DVD でリクエストする場合、パッチの番号、OS とプラットフォームをお知らせください。	該当するソフトウェアリリースのダウンロードごとに、パッチ番号を入力します。
リクエストする製品名とバージョンをお知らせください。	製品名: Sun Blade X3-2B バージョン: 最新のソフトウェアリリース番号。
リクエストするメディアの OS とプラットフォームをお知らせください。	OS 固有のダウンロードをリクエストする場合は、ここで OS を指定します。システムファームウェアのみをリクエストする場合は、「一般」と入力します。
この送付に言語は必要ですか？	いいえ

- 5 送付先の担当者、電話番号、電子メールアドレス、会社名、および送付先住所の情報を入力します。
- 6 「次へ」をクリックします。
- 7 「関連ファイル」の下に **Knowledge Article 1361144.1** と入力します
- 8 「送信」をクリックします。

▼ 物理メディアのリクエスト (電話)

始める前に リクエストを行う前に、[39 ページの「物理メディアのリクエスト用の情報を収集する」](#)に記載されている情報を収集します。

- 1 **Oracle Global Customer Support Contacts Directory** にある適切な番号を使用して、**Oracle** サポートに電話します:
<http://www.oracle.com/us/support/contact-068555.html>
- 2 **Sun Blade X3-2B** の物理メディアのリクエスト (PMR) を行いたい旨を **Oracle** サポートに伝えます。
 - **My Oracle Support** から特定のソフトウェアリリースおよびパッチ番号の情報にアクセスできる場合は、この情報をサポート担当者に伝えます。

- ソフトウェアリリース情報にアクセスできない場合は、**Sun Blade X3-2B** の最新のソフトウェアリリースをリクエストしてください。

アップデートのインストール

以降のトピックでは、ファームウェアとソフトウェアのアップデートのインストールに関する情報を提供します:

- [42 ページの「ファームウェアをインストールする」](#)
- [43 ページの「ハードウェアドライバと OS ツールのインストール」](#)

ファームウェアをインストールする

更新されたファームウェアは、次のいずれかを使用してインストールできます:

- **Oracle Enterprise Manager Ops Center** – Ops Center Enterprise Controller では、Oracle から自動的に最新のファームウェアをダウンロードするか、Enterprise Controller 内にファームウェアを手動でロードできます。どちらの場合も、Ops Center が 1 つ以上のサーバー、ブレード、またはブレードシャーシ上にファームウェアをインストールできます。

詳細については、次にアクセスしてください:

<http://www.oracle.com/us/products/enterprise-manager/opscenter/index.html>

- **Oracle System Assistant** – Oracle System Assistant では、Oracle の最新のファームウェアをダウンロードしてインストールできます。

詳細は、『[Sun Blade X3-2B \(旧 Sun Blade X6270 M3\) 管理ガイド](#)』の「サーバー構成のための [Oracle System Assistant の使用](#)」を参照してください。

- **Oracle Hardware Management Pack** – Oracle Hardware Management Pack 内の fwupdate CLI ツールを使用して、システム内のファームウェアを更新できます。

詳細については、次にアクセスしてください: <http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ohmp>。

- **Oracle ILOM** – Oracle ILOM および BIOS ファームウェアは、Oracle ILOM Web インタフェースおよび Oracle ILOM CLI を使用して更新できる唯一のファームウェアです。

詳細については、次にアクセスしてください: <http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ilom31>。

ハードウェアドライバと **OS** ツールのインストール

更新されたハードウェアドライバとオペレーティングシステム (OS) 関連のツール (Oracle Hardware Management Pack など) は、次のいずれかを使用してインストールできます:

- **Oracle Enterprise Manager Ops Center** – 詳細については、次にアクセスしてください:

<http://www.oracle.com/us/products/enterprise-manager/opscenter/index.html>

- **Oracle System Assistant** – 詳細は、『Sun Blade X3-2B (旧 Sun Blade X6270 M3) 管理ガイド』の「Oracle System Assistant によるサーバーの設定」を参照してください。
- JumpStart、Kickstart、またはサードパーティー製ツールなどのその他の配備メカニズム。

詳細は、使用している OS のドキュメントを参照してください。

索引

B

BIOS, ブートモード、設定 (Oracle VM), 19–20

O

Oracle System Assistant, 概要 (Oracle VM), 14

Oracle VM

PXE サーバーを使用したインストール, 28

インストール, 12, 21–30

インストールオプション, 13

インストールタスク表, 11

ソフトウェアのバージョンとアップデート, 12

ドライバのインストール, 32–33, 33–34

メディアのインストール, 25–28

メディアのダウンロード, 17–18, 18–19

リソースの作成と管理, 34

OS インストール支援, Oracle VM, 21–25

OS のインストール, Oracle VM, 9

OS の手動インストール, Oracle VM, 25–28

P

Preboot Execution Environment (PXE)

Oracle VM のインストール, 28

設定 (Oracle VM), 18–19

U

Unified Extensible Firmware Interface (UEFI), 「BIOS
を参照」を参照

さ

サポートされている
オペレーティングシステム
Oracle VM, 12

そ

ソフトウェア, インストール (Oracle VM), 31–32

た

ダウンロード
Oracle VM, 17–18, 18–19

つ

ツールとドライバ
インストール
Oracle VM, 31–34

と

ドライバ
個別インストール
Oracle VM, 33–34
すべてインストール
Oracle VM, 32–33

は

ハードウェアとソフトウェア

情報

Oracle VM, 12

ふ

プロダクトノートドキュメント, Oracle VM, 12

り

リモートインストール, 設定 (Oracle VM), 18–19

ろ

ローカルインストール, 設定 (Oracle VM), 17–18